

令和5年度第2回三木市部活動の在り方検討会議

日時：令和5年9月29日（金）午後7時から

場所：三木市役所 5階 大会議室

1 開会あいさつ（会長）

2 報告事項

第1回三木市部活動の在り方検討会議のまとめ（別紙①参照）

3 協議事項

「三木市における学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する地域展開についての意見書（仮）」に盛り込む内容について協議、意見集約

(1) 「三木市の持続可能な文化・スポーツ振興 のイメージ像」について

(2) 三木市の現状からできることについて

4 閉会あいさつ（副会長）

令和5年度第1回三木市部活動の在り方検討会議 まとめ

1 三木市の部活動現状のまとめ

生徒数の減少	<ul style="list-style-type: none"> 学校によって違いはあるが、数年で激減していくわけではない。 ▶段階的に準備し、部活動の地域クラブ活動に移行できる。
地域で活動する生徒の人数	<ul style="list-style-type: none"> 2割くらいの生徒が地域活動をしている。 学校部活動以外のクラブで活動している生徒は8%【77人】 学校部活動と地域活動の両方に参加している生徒は11%【106人】 種目等、選択の幅が増えてきており、地域活動を選ぶ生徒も増えてきている。 小学校から継続して取り組んでいる生徒が多い。 平日も地域で活動をしている生徒が増えてきている。 ▶地域クラブ活動に移行しやすい活動がある。

2 喫緊の課題

課題等	対応
部員が足りない学校の救済	<ul style="list-style-type: none"> 合同チームを形成することで対応済み。新人大会に合同チームで出場した学校については、総合大会で部員が足りていても継続して合同チームとして参加できる。
取り組みたい部活動が自校にない場合の対応	<ul style="list-style-type: none"> 個人種目は、学校にその種目の部活動がなくても、在籍している学校の生徒として大会に参加できる。 団体種目は、拠点校の部活動に参加 種目によりクラブチームとしても中体連の大会に参加できる。
教職員の業務負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> 教員が平日夜遅くまで勤務し、休日も部活動指導を行うという状況がなかなか改善されない。 家庭の事情で部活動を担当できない教員もいる。
指導者の確保	<ul style="list-style-type: none"> 部活動補助員を増員する予算確保 指導者の確保の困難さ

3 中・長期的な視点での課題

活動の多様化	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢が増えると部員が分散して活動の運営が難しくなる。 ・レベル別に活動を整理するなどし、上達したい、練習をしたいという生徒のニーズにどのように答えていくかも考えていく必要もある。 ・現在の部活動に参加している子どもたちの思いを平均的に捉えたらどうなのかを知ることも必要である。
スポーツ協会での地域クラブ活動の指導や指導者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・団体競技は、自分の競技活動と協会の運営だけで手いっぱいであり、指導者の確保が難しい現状がある。 ・卓球やバドミントンなど、個人競技は子どもを指導しながら、競技活動はできるかもしれない。
活動場所や道具の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・練習場所や使用する道具をどうするのか、学校を借りるとしても施設管理をどうするのかといった課題が考えられる。
送迎の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点校での活動や地域クラブ活動での送迎の課題をどう解決するか。
平日のクラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・平日の地域クラブ活動の運営が可能かどうかの検討 ・持続可能なクラブ活動という観点での「学校の活動内容の見直し」 ・今の平日の部活動と同じことを地域の方が行うのは不可能である。 ・今の学校部活動を、そのまま地域に移行するという考え方ではなく、新たな事業展開として地域のクラブ活動を考えていくように捉える。
教職員の地域クラブ活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・指導をしたいと思っている教師もいるので、平日の指導については対応できる可能性もある。 ・兼職兼業制度の整理が必要 ・教員の評価に繋がらないよう、あくまでも教師とは違う立場で地域クラブ活動は行っているといった周知を丁寧に進める。
学校の教育活動との区別	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内で、異学年で楽しく活動できるようなものがあればよいと感じて

	<p>いる生徒もたくさんいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間範囲内で教師も生徒も無理のない範囲でできる部活動（クラブ活動）を新しく構築できないか検討していく必要がある。 ・部活動については、学校と完全に切り離すといった具体的なことも議論をしていく必要がある。
大会の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校部活動の地域移行が進むと、大会運営はどかが担っていくか。

4 三木市における学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する地域展開についての意見書（仮）について

めざすべきビジョン	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育ではなく、社会教育活動、生涯教育事業として展開していく。 ・三木市として10年後に中学生も含めてどのような文化・スポーツ活動が行われているのか、めざすべき具体的な全体的なビジョンを作る必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・三木市の持っている資源でいかにできるのかの検討 ・運営団体、実施主体はどうするのか。登録団体、チーム等を統括する組織はどうするのかを議論していく必要がある。 ・新しい種目の活動をチャレンジ的に行うことの検討 ・拠点（エリア）ごとに活動を展開の検討

「第2回三木市部活動の在り方検討会議」資料

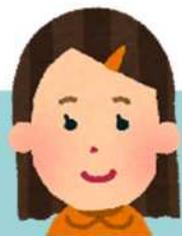
「三木市の持続可能な文化・スポーツ振興のイメージ像」について



三木市教育委員会

なぜ、今、地域クラブ活動を中心にした持続可能な「文化・スポーツ活動」をめざすのか？

子どもたちの「やってみたい!」という好奇心に、可能な限り応えることができるよう、多様な「文化・スポーツ活動」の環境を、地域の力を活用して整える必要があるため



私は、軽音楽もスポーツもやってみたいな!



やらせてあげたいけど、軽音楽に関する部活動は、今の学校では指導者がいないなあ。

僕は、高いレベルの競技スポーツに取り組みたい!



eスポーツに取り組みたいけど、どこかで活動できるかな?



私は、のんびりいろいろなスポーツを楽しみたいなあ



地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる。

三木市の地域資源の活用

- ・活動プログラムの充実
- ・指導者、ボランティアの確保
- ・活動場所の確保 など

※1人1人の「やってみたい!」という思いに、地域としてどの程度応えることができるか、その見極めが重要

1人1人の「やってみたい!」

← マッチング

多様性に応える「文化・スポーツ活動」の環境整備

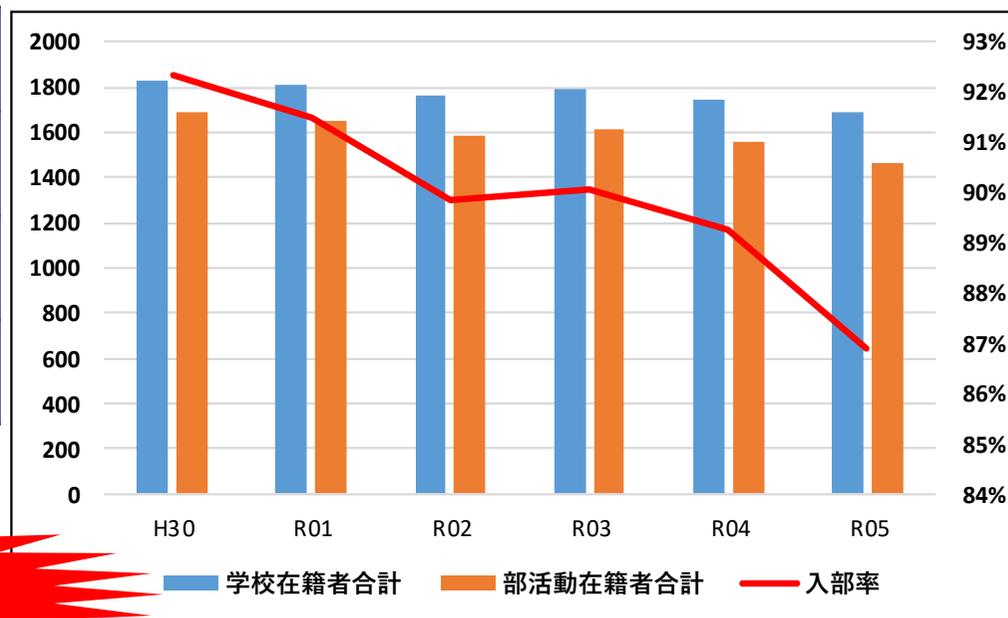


なぜ、これまでの学校部活動は持続することができないのか？

人口減少に伴い、子どもたちの1人1人の希望に応える「文化・スポーツ活動」を、学校だけで担っていくのは今後ますます難しい状況になっていくと想定されているため。

三木市の中学校における部活動在籍人数

	H30	R01	R02	R03	R04	R05
学校在籍者 (人)	1828	1806	1763	1790	1740	1686
部活動在籍者 (人)	1688	1652	1584	1612	1553	1465
入部率	92%	91%	90%	90%	89%	87%



6年間で生徒数は約140人減、入部率は5%減
今後も生徒は年々減少し続ける予想となっている。

子どもたちの「やってみたい!」という思いを尊重し、部活動が存続できるように、学校では合同チームを作るなどの工夫をしているが、学校単位での活動は難しくなっている現状がある。



なぜ、子どもたち1人1人の希望に応える「文化・スポーツ活動」の環境づくりをめざすのか？

生涯を通じて「文化・スポーツ活動」に取り組むことで、幸せで豊かな暮らしの実現をめざす

文化・スポーツ活動への興味関心の向上

健康及び体力の維持増進

チャレンジする経験

けがや事故を回避する力の育成

楽しさを感じる経験

心地よさの実感

多様な文化、芸術に触れる経験

個性や能力の伸長

望ましい人間関係の構築

主体性

やり遂げる体験や役割貢献などを通して、問題解決力や自己管理能力、人間関係形成能力など社会的自立の基盤となる力を育てる。

協働性

地域での活動に参加することで、社会の一員としての自覚や社会参画への意欲・態度を育てる。

創造力

表現活動等を通して、豊かな感性や創造力を育てる。

三木市がめざす「文化・スポーツ活動」を通じた子どもたちの育成イメージ⁴

「これまでの活動」と「めざす地域クラブ活動」との違い

【これまでの活動例】

中学生まで



中学生になったら

休みの日も
学校で活動



学校部活動



学生が終わってから



地域クラブ活動

地域での活動が途切れることで、地域との関わりが薄れてしまうなどの課題

人としての豊かな成長を支える環境を、地域の「文化・スポーツ活動」を通して整える

【めざす地域クラブ活動イメージ】

成長ステージに合わせて、地域の文化・スポーツ活動に関わることができる。

中学生まで



中学生になっても



地域クラブ活動

学生が終わってから

- ・地域の指導者としての活動
- ・子どもたちと共に楽しむ伴走者としての活動



文化・スポーツ活動を通じた年代を越えた多様な人との繋がりづくり、共に行う健康的なライフスタイルづくり

地域クラブ活動移行後の中学生Aさんの1週間の活動イメージ



いろいろな活動にチャレンジできるから
毎日の楽しみがふえました。

月曜日	学校の授業	地域クラブ（スポーツ）
火曜日	学校の授業	地域クラブ活動（音楽）
水曜日	学校の授業	その他の活動
木曜日	学校の授業	地域クラブ（スポーツ）
金曜日	学校の授業	地域クラブ（スポーツ）
土曜日	その他の活動	
日曜日	地域クラブ活動（音楽）	



部活動は、「生徒の自主的で多様な学びの場」であり、地域クラブにおいてもその意義を継承・発展させることが重要だと言われている。（文科省:学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン）より

地域クラブの活動イメージ例（ニーズ別に活動プログラムを充実）

競技スポーツとして楽しむことができる「テニスクラブ」



私は、競技テニスに取り組みたい。大会にも出たい！

ムシケソウ

子どもたちの活動に対するニーズの把握



私は、テニスを楽しんでプレイしたいなあ

他の活動もしたいので、活動日を自分で選べたらいいなあ。

ムシケソウ

体を動かすことを楽しむことができる「テニスクラブ」

三木市の持続可能な文化・スポーツ振興のイメージ像とは？

地域クラブ活動をめざす上での三木市としての「強み」と「課題」を整理する

強み

・

課題

- ・子どもたちの活動に対するニーズ把握
- ・地域クラブでの活動が可能なプログラムの把握
- ・指導者人材の確保
- ・子どもたちと共に楽しむボランティアの確保
- ・活動場所の確保
- ・活動経費（保護者負担）の軽減
- ・教職員の業務負担の軽減

・